

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年7月23日

mRNAワクチン接種後の心筋炎リスク：米国

【参考】日本データの紹介と解説

## 【松崎雑感】

ファイザーワクチンなどのmRNAワクチン接種後に心筋炎が起きますが、全年齢では10万人に1人程度、しかし10代から20代の男性ではその10倍の頻度で起きます。ただし、ほとんどが軽症で治癒する事、新型コロナに感染すると、一桁以上多い頻度で心筋炎が発症するため、若い世代も含めて、ワクチン接種の利益の方がずっと多いとされています。極めて少ない副反応ですが、ワクチン接種から10日くらいは、激しい運動を控えた方が良いと思います。暑さのおり、熱中症の心配もありますから。

## mRNAワクチン接種後の心筋炎リスク：米国

Wong HL, Hu M, Zhou CK, et al. Risk of myocarditis and pericarditis after the COVID-19 mRNA vaccination in the USA: a cohort study in claims databases. *Lancet*. 2022;399(10342):2191-2199. doi:10.1016/S0140-6736(22)00791-7

### 背景

自己申告制ワクチン副反応サーベイランスシステムから、mRNAワクチン接種後の心筋炎が特に若い人々に多いことが報告されている。

大規模ヘルスケアデータベースを用いて、積極的サーベイランスを行い、mRNAワクチン2種による心筋炎発症リスクを調査した。

### 方法

このデータベースに登録された18~64才の人々で、mRNAワクチン接種から7日以内に心筋炎が発症したかどうかをワクチン種類別に比較した。

バックグラウンドの心筋炎発症率は、新型コロナ流行前のデータに基づいた。

## 結果

18~64才1514万8369人に対して、ファイザーワクチンが1691万回、モデルナワクチンが1063万回投与され、411名の心筋炎の発生が積極的サーベイランスにより検出された。

心筋炎リスクは2回目接種後に有意に高かった（10万人日あたりファイザー1.71人、モデルナ2.17人）。

モデルナワクチンはファイザーワクチンよりも10万人日あたりの心筋炎発症件数が1.43倍（95%信頼区間0.88-2.34）多い傾向が見られた。これは100万接種あたり27.80（-21.88~77.48）件となる。

## 考案

mRNAワクチン接種後の心筋炎は18~25才の男性で2回目接種に多くなっていた。しかし、心筋炎発症の絶対的リスクは極めて小さい。

今回の解析で両ワクチン間には発症リスクの有意差は見られなかったが、まったく差がないと結論付けるのは早計だろう。いづれにせよ、mRNAワクチン接種のベネフィットはリスクよりも極めて大きいいため引き続き接種を勧奨すべきだろう。

## 【参考】 [FAQ - こびナビ \(covnavi.jp\)](https://covnavi.jp)

mRNAワクチン接種後の稀な副反応として、心筋炎という心臓の筋肉の炎症が起こることがあります<sup>1)</sup>。イスラエルの大規模な臨床研究では、10万人あたり2.13件で心筋炎が認められ、16～29歳の男性では10万人あたり10.69件で最も頻度が高かったことが報告されています<sup>2)</sup>。

日本のデータでも、1回目接種後よりも2回目接種後に多く、特に若い男性で心筋炎が疑われる事例の頻度が高いと報告されています<sup>2)</sup>。また、ファイザー・ビオンテック社製よりもモデルナ社製のワクチンの方が報告頻度が高いことが分かっています。

例えば、日本の12-14歳の男性において心筋炎が疑われた報告の頻度は、ファイザー・ビオンテック社製ワクチン（100万接種当たり26.1件）よりモデルナ社製ワクチン（100万接種当たり80件）の方が多い結果でした。また、15-19歳の男性では、100万接種当たりそれぞれ25.5件（ファイザー・ビオンテック社製）と98.7件（モデルナ社製）となっています。

厚生労働省は「いずれのワクチンも、新型コロナウイルス感染症により心筋炎や心膜炎を合併する確率は、ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を発症する確率と比較して高いこと等も踏まえ、現時点においては、接種によるベネフィットがリスクを上回って」いるとしています。ただし、上記の通り、ファイザー社のワクチンに比べ、モデルナ社のワクチン接種後の心筋炎・心膜炎が疑われる報告頻度が高いことから、10代及び20代の男性についてはファイザー社のワクチンも選択できることとする、としています<sup>3)</sup>。

新型コロナワクチンを接種した後の心筋炎は、多くが数日から1週間程度の入院治療が必要になります。しかし、全体の76%が軽症、22%が中等症と分類されており、ほとんどの症例で症状は回復することが知られています<sup>2)</sup>。特に若い男性においてコロナワクチン接種後、数日以内に胸の痛み・息苦しさ・動悸などが生じた場合は心筋炎の可能性も考え、医師にすぐ相談しましょう。